

2013年3月13日

報道関係各位

ソーラーフロンティア株式会社

欧州リース業界大手*、CIS 薄膜太陽電池の信頼性を後押し

ユニクレディットリース、ソーラーフロンティア製パネルの太陽光発電案件に融資を推奨

【ミュンヘン、2013年3月13日】－ソーラーフロンティア株式会社（社長：亀田繁明 本社：東京都港区台場2-3-2、以下、ソーラーフロンティア）は、顧客が太陽光発電プロジェクトにおいてCIS薄膜太陽電池を使用する場合の資金調達に際して、欧州の資産担保融資大手、ユニクレディットリースは融資の信頼性が適格であるという審査結果を獲得したことをお知らせ致します。独フラウンホーファー太陽エネルギーシステム研究所（ISE）による厳格な品質試験を経て、ユニクレディットリースは、ソーラーフロンティア製のCIS薄膜太陽電池の耐久性と性能、それに加えて企業としてのソーラーフロンティアを信頼できる太陽電池メーカーであることを追認したことになります。

ユニクレディットリースによって、ソーラーフロンティアは大規模プロジェクトの資金調達源として新たに有力な金融機関を加えることになり、プロジェクトの投資家からの信頼性はさらに高まります。ソーラーフロンティアの強力なバンカビリティ（融資適格性）は、施工業者や太陽光発電事業者に対して、ソーラーフロンティアのCIS薄膜太陽電池を使用するプロジェクトが資金調達も含めて信頼性が高いことを証明することになります。

ソーラーフロンティア・ヨーロッパのマネージングディレクター、ウォルフガング・ランゲは、次のように述べています。「一般的に、太陽光発電所、大規模な商業施設、プロジェクト事業などの大規模プロジェクト向けに銀行や金融機関からの資金調達を目指す顧客企業にとって、バンカビリティは重要な基準です。特に現在のような市場環境において、太陽電池企業の成否にとってバンカビリティは極めて重要な要素となっています。ソーラーフロンティアは欧州では既に複数の知名度の高い銀行や金融機関から資金調達が可能な状況となっていますが、ユニクレディットリースの信用は当社が世界市場へ拡大を続ける上で重要なマイルストーンです。」

*：ユニクレディットリースは欧州を代表する民間金融機関のユニクレディットグループの一員で、従業員約3,000名、東欧を含む欧州全域の19カ国に支社網を展開する資産担保融資の最大手の一つです。

【ソーラーフロンティア株式会社について】

ソーラーフロンティア株式会社は昭和シェル石油株式会社（5002, T）の100%子会社であり、CIS薄膜太陽電池の生産・販売を行っています。2011年2月より商業生産を開始した国富工場（年産能力900メガワット）は、CIS薄膜太陽電池の生産工場として世界最大です。ソーラーフロンティア株式会社が生産・販売するCIS薄膜太陽電池は、銅、インジウム、セレンを使用して、当社の独自技術で生産する次世代太陽電池であり、経済効率が高く、環境に優しいことが特徴です。太陽電池の設置容量(kW)あたりの実発電量(kWh)が従来型のものに比較して高いだけでなく、原料からリサイクル処理まで高い環境意識で設計・生産されており、その長期信頼性や保証体制に関しては「JETPvm認証(JIS Q 8901)」などの第三者機関による認証を受けてきました。デザイン面でも、内閣総理大臣表彰「第2回ものづくり日本大賞」で優秀賞(製品・技術開発部門)、財団法人日本産業デザイン振興会が主催する「2007年グッドデザイン賞」では特別賞エコロジーデザイン賞を受賞しています。詳細につきましては[当社ホームページ](#)をご覧ください。[公式ツイッター](#)と[公式ブログ](#)でも太陽光発電に関する最新情報などを随時発信しています。

報道関係からの問い合わせ先:

ソーラーフロンティア株式会社 ブランド&コミュニケーション部 中島・八宮

TEL: 03-5531-5792